

## 【随筆】

## サロベツ大遠征

住 吉 尚

(釧路支部)

今日はやることもなく、ゴロゴロ寝転んでテレビを見ていました。すると珍しく電話が鳴りました。というのは私の携帯に電話をかけてくる人はほんの数人しかいないからです。釣り仲間からの誘いかな?と思いつきながら出ると、電話の主はタンチョウ保護研究グループの百瀬君からで、タンチョウの捕獲作業で経験者が少ないので手伝ってくれないか?とのことでした。暇を持って余していた、ということもあり、ふたつ返事でOKと言ったのですが、場所は豊富町だと言います。サロベツ湿原で繁殖した家族を無双網で捕まえようという作戦です。無双網の設置と餌付けは現地スタッフがやるが、タンチョウの捕獲経験がない2名を含めて3名しかいないとのこと。上手く捕獲できれば一度に3羽ですから、こちらから1名では大変だということでしょう。できれば採血もして大陸由来の個体か?も調べたいですね。去年は4羽捕獲して足輪を付け、1羽には発信機も付けたのですが、今年は発信機が3台あると言います。でも釧路から豊富町まで車でとなると休み時間も必要ですから8時間以上かかるでしょうね。捕獲予定日の前日に走り、捕獲に1日、帰りに1日で2泊3日の予定です。現地にはスタッフが借りている町営住宅があるということですが、寝具は、食事は、と色々な心配事がありますよね。どんな準備をして、服装は?タイヤ交換は?とか準備が必要です。10月24日出発で26日帰宅の予定ですがどうなりますやら。と言うことで、今回は年寄り2名のデコボコ道中記です。

水曜日、獣医師会での事務仕事の帰りに、タンチョウ保護研究グループの事務所に寄ると、出発を1日早めて日曜日に出発し、3泊4日でやりたいとのこと。土曜日はあれこれ出発の準備です。天候は?日曜日はあまり良くないようですが、その後は良さそうです。寝具は向こうにあるとのこと。でも食事はコンビニ弁当が主になりそうな気配。だからと言って食べ物までは持っては行けません。後は当たって砕けろ!と言う感じです。と言うことで日曜日の午前8時にタイヤ交換を済ませた百瀬号が迎えに来ました。いざ出発です。

走り始めて間もなく、阿寒町で足輪付きのタンチョウ

を見つけ番号を読み記録を付けます。これでは到着はいつになるやら。でも釧路から美幌、北見を通って湧別まではすんなり走りました。湧別川の南で7羽のタンチョウの群れを見つけてから、シブノツナイ湖、コムケ湖にかけて合計20羽のタンチョウがいましたから、オホーツク海沿岸には予想以上にタンチョウがいるようです。こんなことをしながら走りますから、浜頓別に着いた時には真っ暗でした。夕食が食べられるレストランでもないかと町中を1時間近く探しましたがありません。仕方なく今晚はコンビニ弁当で我慢することとして豊富町へ。19時頃だったでしょうか、3泊する住宅はサロベツエコネットワークと言う団体が事務所として借りている町営の古い住宅です。我々が到着すると間もなく向こうのスタッフが現れました。明日早朝に動かす無双網の最終点検をしていたとのこと。明日は5時過ぎに迎えに来るとか。この住宅には釧路の2名と羽幌でバンダーをしている1名の計3名が宿泊します。

こうして翌朝です。5時10分ごろでしょうか、迎えが来ました。迎えに来たサロベツエコネットワークのスタッフと泊っていた3名の計4名が1台の車に乗って現地に。そこでエコネットのもう1名のスタッフが乗り込み、5名で無双網が仕掛けられているデントコーン畑の縁で、車のエンジンを止めタンチョウが飛来するのを待ちます。宿泊場所からは数分で到着したので、まだ真っ暗です。しばらく待って、東の空、山の端が茜色に染まって染まって、そろそろ日の出か?やっとなデントコーン畑の端まで見えるようになってきました。遠くでタンチョウの鳴き声がします。まもなく2羽のタンチョウが飛来しました。1羽には昨年付けた足輪が見えます。去年は単独個体だったとか。今年つがいになったのでしょうか。デントコーン畑に降り立つと大急ぎで無双網が仕掛けられているところに向かいます。網の前には沢山のデントコーンが撒いてあります。この畑に来るタンチョウの中ではヒナ1羽を連れて家族が一番強いので、この家族が来ないうちに腹いっぱい食べておこうという魂胆でしょう。車から1名がそっと出ます。仕掛けを引くワイヤー係です。もう1名のエコネットスタッフが望遠鏡を見ながらタイミングを計ります。2羽とも無双網の奥の方を向いて頭を下げている瞬間です。「ゴー!」一瞬で2羽が網の中でもがくのが見えます。車が走りだします。止まると同時にバラバラと走りだし網の上からツルを押さえます。私も「保定具!」と言いながら1羽の頭をつかみ、目隠し用のキャップを装着し、直ぐにもう1羽にも目隠しをします。後は網はずしですが足がいちばんこんがらかって



無双網全景



タンチョウに背負わせる無線機



捕獲し保定帯で包んだタンチョウ



無線機を背負わせる時の保定

います。網を鳥の上に伏せたのですから、網を上からはがすようにして翼や足そして網の目から突き出している首を抜きます。2羽を無事網から外すと、今度は今年初めて捕獲した個体に足輪を付け採血をします。昨年捕獲した個体は雄と分かっていますから、こちらには発信機を取り付けます。発信機はランドセルを背負うように背中に背負わせます。

なんだかんで1時間ほどかかったでしょうか。その間に本命ターゲットのヒナを連れた家族が我々の上を飛んで行きました。「怪しい奴がいる」と思われましたかねー。この2羽を放鳥して作業終了です。ホッとして宿泊場所に戻ります。まだ8時です。若い人がコンビニにおにぎりを買ってきてくれたので、食べながら今日の反省会と明日の予定の話をします。文字通りに朝飯前の出来事でした。でも我々にはこの後することがありません。サロベツ湿原センターを見学して豊富の街で昼食を食べ、あとはタンチョウがいそうな場所を羽幌のバンダーに案内してもらいながら時間つぶしです。兜沼まで来たのでついでに抜海の港にアザラシが来ているかも？と行きか

けると電話が鳴り、例の家族が網場に飛来しているとのこと。早速走り出します。でも3羽に足輪を付け2羽に発信機を付けると2時間近くかかるので、明るいうちに放すためには14時が限界でしょう。15時に現地に到着。明日の捕獲のため、家族にのんびり餌を食べてもらいました。夜は温泉に行き夕食を食べ、風呂に入って宿舎へ帰り、今日は早寝です。

翌日は5時半に迎えが来ました。タンチョウの飛来は昨日より少し遅く6時半ぐらいだったでしょうか。2羽の成鳥が飛来しましたが、デントコーン畑をあちこち歩き回っています。どうやら網場の餌には付いていない個体ようです。2羽ともに足輪が付いていないのでチャンスがあれば捕獲しようと話していると、次に単独個体が飛来しました。そうこうしていると今度は本命のヒナ連れ3羽も飛来し、2羽を追い出しました。でも単独個体はなかなか飛び去りません。追われても追われてもしつこく家族に付きまといま。何度も追われた後にやっと飛び去りました。親が他の個体を追い出している間、ヒナは網場の餌を食べています。こちらはまるで警戒心

がなく網の上を平気で歩き回っています。親鳥2羽も餌場に来ました。今度は3羽同時に網の方を向き、頭を下げて餌を食べている瞬間を狙います。「ゴー！」掛け声とともに網が立ち上がりターゲットの上を飛びます。ヒナが網にかかってもがくのが見えました。でも親鳥は網が伏せられる直前に地面すれすれを飛んで逃げてしまいました。残念！どうも今日は網の動きが少し遅かったような気がしました。でも仕方ありません。ヒナに足輪を付け羽根を採集したので採血も省略して、早々に親鳥の元に返しました。この後は夏に捕獲したヒナを親に返した時と同じで、親鳥はヒナを近くの畑で待っていて、放したヒナを連れて飛び去りました。一安心です。この場合、親の1羽が捕獲された時も、親鳥2羽がこの事件を理由に別れてしまうことを避けるために、片方だけに発信機を付けるのは避けたでしょうね。ともあれ1羽に発信機を取り付け、親子連れの1羽には足輪が付きましたから、成功だったということでしょう。今日も20時には宿舎に帰りましたが後はすることがありません。宿舎でゴロゴロしているだけです。明日は朝8時までにはタンチョウが飛来すればチャレンジを。できなければ釧路に帰る！と決めました。発信機があと2台あって、どうしても付けたかったのです。でも翌日は全くタンチョウが現れず、8時に切り上げ帰って来ました。とは言え、すんなり帰ってきたわけではありません。途中、枝幸まで来た時、オホーツクの増田会長からの電話で、上湧別に足輪付きのタンチョウがいるとのこと。それ！昼食も食べずに走りました。湧別川まで直行、そして探し回りました。上湧別の橋のすぐ上流でついに足輪付きの2羽を確認。378番と読めました。この個体は十勝の湧洞で足輪を付けたヒナ2羽の内の1羽です。早速増田会長に電話をすると「私が見たのは413番だと思ふ」とのこと。行きに見た20羽にさらに少なくとも4羽はいるということのようです。これでタンチョウ探しは終了して釧路に帰ります。日が暮れたので津別で夕食をと思いましたが、食べる場所がありません。それでは！と阿寒湖の温泉街で探しましたが、ここでもダメ。仕方なく、阿寒町の「赤いベレー」で夕食を食べ帰って来ました。

1日休んで、金曜日はカレイ釣り、土日は外して月曜日にはチカ釣りをしていました。すると電話が鳴り、11月6日の日曜日から8日火曜日の日程で、またまたサロベツ行きをお願いされてしまいました。今度はサロベツ湿原センターの当直室で寝るとか。今度はシーツやタオルケットも持ち込んで少しは寝やすい環境をと思いましたが、ここにはテレビもラジオもないので時間つぶしが



西には雪化粧した利尻が



抜海港のゴマフアザラシ

大変でした。事前の情報では早朝にはタンチョウが飛来しない、10時ぐらいから14～15時ぐらいかも！とのこと。これでは1日しかない日程で捕獲できるのか？心配しながら、早朝5時半には現地へ。エンジンを止めた車の中で待つこと30分、西から2羽が飛来しました。私が「来た！」皆緊張します。タンチョウがデントコーン畑に降り立つと同時に、付近の電柱にいたカラスがタンチョウの周りに降り立ちました。カラスはタンチョウがいれば安全と知っているようです。こうして6時半前に2羽のタンチョウを捕獲。今度は2羽ともに足輪を付け、採血をして、発信機を取り付け、放鳥しました。これで今年サロベツでは5羽を捕獲、4羽には足輪を付け、3羽には発信機を付けて、サロベツでのミッションは大成功のうちを終了となりました。あれこれ片付けをして、9時には現地出発、まず抜海港でアザラシを見て、浜頓別以北のオホーツク海側でのタンチョウ生息地を見て、夕方上湧別のチューリップの湯に浸かり、夕食を食べて、なんとも古めかしい旅館に泊まることに。部屋には小さな

ブラウン管テレビがひとつ。洗面所は長い鉄板流しに沢山の蛇口がついていて、如何にも昭和を感じさせるものでした。もちろん朝食は塩鮭、納豆、卵焼き、海苔と梅干。こんな旅館が未だあるということには驚きでした。こうして3日目は上湧別周辺、女満別、湯沸湖周辺から斜里町にかけて、峠を越えて屈斜路湖畔などを探してタンチョウ19羽、足輪付き2羽を見て家に帰りついたのは18時でした。

このように文章を書くと簡単に終わったように見えますが、釧路から70歳を過ぎた老人が応援に行くのは大変です。何とか向こうにタンチョウ捕獲隊ができないものでしょうかね。それと現場は大急ぎの作業ですから、タンチョウの保定などの技術を伝える余裕はありません。採血の時とか、発信機を付けるときは立たせたままが良いのですが、その時はどう保定するのが良いとか、伝えなければならない技術が多いと感じました。道北にはタンチョウにかかわりたい人は誰かいませんかー！

〔句題〕 年の暮れ

「やもめにも  
子等の電話の  
クリスマス」

「明日からは  
日がまたもどる  
冬至かな」

「想い出は  
暑い寒い  
年の暮れ」



(室蘭市 白波瀬 稔歳)

〔俳句〕  
秋の陽や牛舎の影の濃く長く  
(川柳)  
戦争と言わぬ作戦どこまでも

〔都々逸〕 (現代漢詩)  
草食獣？ 実数  
腹に詰めこむ 過疎悠悠放牧牛  
ニンジンカボチャ 死廃数頭能被害  
十勝ばんばの 過密泥々舎飼牛  
生産地 死廃千頭人加害

(幕別町 豆作(まめさく))